



ひ ね の し ょ う お お ぎ

日根荘大木の農村景観

No.27-01

所在地：大阪府泉佐野市

選定年月日：平成25年10月17日

面積：953.9 ha

選定基準：二(一)(八))

(1) 概要

大阪南部の泉州地方の平野部から、和泉山脈の燈明ヶ岳(とうみょうがたけ) (標高558m) を中心とする犬鳴(いぬなき)山麓にかけての地域には、五摂家のひとつである九条家の中世荘園日根荘の農村地帯が広がります。

その中でも、大木は犬鳴山に水源を持つ樫井川(かしいがわ)沿いの小さな盆地に位置し、紀州の粉河(こかわ)へと通ずる街道沿いに拓かれた水田及び村落が、荘園の名残を示す用水・地名などとともに、泉州地方の山間地における農耕・居住の良好な文化的景観を形成しています。

日根荘は、天福2年(1234)に立券され、天文年間(1532～1555)まで維持された荘園です。16世紀初頭に日根荘へと下向した九条政基の『政基公旅引付(まさもとこうたびひきつけ)』により、当時の荘園内における農産物の品目が知られます。また、19世紀後半の『大木村絵図』等によると、現在の土地利用形態は近世期からほとんど変化していないことがうかがえます。

日根荘大木の農村景観は、中世における摂関家の荘園に起源を持ち、和泉山脈における盆地の地形とも調和し、当時の土地利用の在り方を継承しつつ、近世から現代にかけて緩やかに進化を遂げた農村の文化的景観であり、我が国民の基盤的な生活又は生業を理解する上で欠くことのできないものです。



大木地区全景



道沿いの石積み

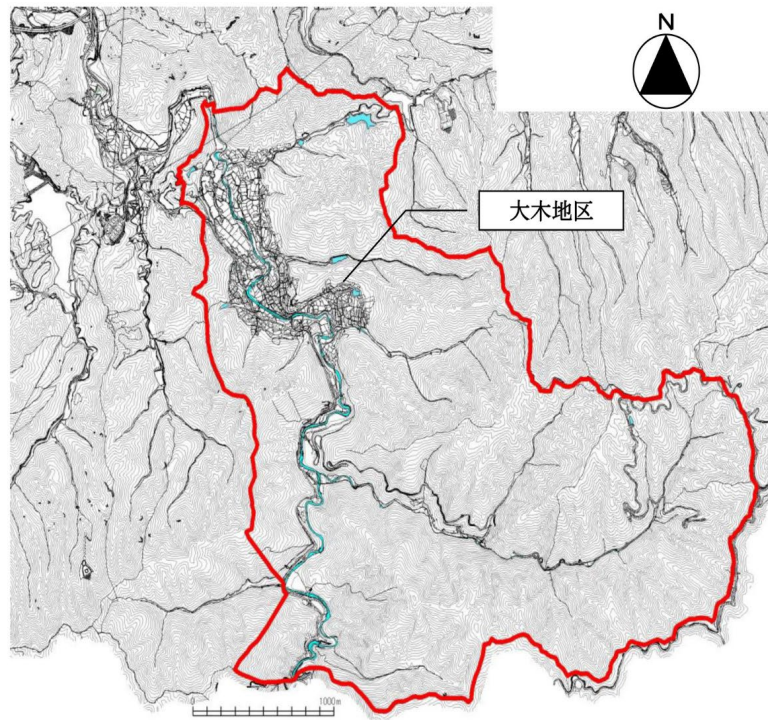


小学校の農作業体験



火走神社秋祭り(担いだんじり)

（２）選定範囲



— 重要文化的景観範囲

- 重要な構成要素：64件
- 国指定等文化財：火走神社、毘沙門堂、円満寺、蓮華寺、長福寺跡(史跡)、火走神社摂社幸神社本殿(重要文化財(建造物))

（３）選定による効果

選定前から次の世代へ文化的景観を継承していくために、地域の人々の様々な取り組みが行われていましたが、選定後は地域の人々と泉佐野市が協働して重要文化的景観を残していくための様々な取り組みを行っています。地域外の来訪者を増やすために、大木地区をPRするためのイベントを開催したり、景観維持のために、文化的景観の制度を活用し、重要な構成要素の修理、修景を行っています。

また、日本遺産の構成文化財にも認定され、大木地区を紹介した動画や地域内を周遊するための看板やアプリなどを作成し、大木地区への来訪者を迎える仕組みづくりを実施しています。



日本遺産に認定



改修工事後の毘沙門堂

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 日根荘地域の文化的景観調査報告書（平成20年3月、泉佐野市教育委員会）
- 文化的景観日根荘の里保存活用計画書－大木・土丸編－（平成25年1月、泉佐野市教育委員会）
- ホームページ

<https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/kyoiku/bunkazaihogo/menu/keikan/index.html>

（５）活用事例

事例27-01 ①

「大木まちづくり協議会」と行政の協働による、歴史ある水田を守るための取り組み

●行政と住民等の協働による取り組み

選定をきっかけに「良好な景観と環境を守り、安全で活力と魅力あるまち」を行政と協働により実現することを目的とする「大木まちづくり協議会」が大木地区で結成されました。

平成19年より史跡日根荘遺跡の指定地の一つである長福寺跡を暫定的に活用し、歴史的な環境とともに農空間を維持するために、稲作を実施しています。また地元小学校の児童の農作業体験において指導などを行い、学びの場として活用しています。収穫したお米は市内小中学校の給食に提供され、市域全体へ活動及び「大木米」の普及に取り組んでいます。

平成27年より休耕田を活用して実施している「日根荘大木の里コスモス園」は、協議会のメンバーだけではなく、地域住民が一丸となってコスモスの栽培から開園時の運営業務までを行っています。令和5年度は来場者が6,000人のうち、市外からの来場者が半数を超え、地域の賑わいの一助となっています。

大木まちづくり協議会の会員の声

大木地区の豊かな自然や町並み、歴史を次の世代へ受け継ぐために、さまざまな取り組みを行っています。コスモス園では景観や史跡の冊子を配布し、地域の魅力を伝えるなど、景観の維持とともにPR活動にも力を入れています。



大木まちづくり協議会の会議風景



活動により、美しい水田が保たれている長福寺跡



長福寺跡での地元小学生の田植え体験の様子



休耕田を活用したコスモス園の様子

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育

（５）活用事例

事例27-01 ②

日本遺産であることを活かしたプロモーション

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

重要文化的景観選定後、重要文化的景観保存活用計画に沿った整備、活用のための事業を実施してきました。

令和元年に「日根荘大木の農村景観」などを構成文化財としたストーリー「旅引付と二枚の絵図が伝えるまちー中世日根荘の風景ー」が日本遺産に認定されたことにより、泉佐野市が中心となった日本遺産日根荘推進協議会を結成しました。

日本遺産の普及のための講演会の実施やホームページ作成、大木地区の景観を活かしたPR動画や冊子を作成し、大木地区の魅力発信に取り組んでいます。また、来訪者が周遊しやすいよう多言語化に対応した案内看板やARアプリも作成しました。

そのほか、来訪者が使用するためのトイレの整備や休憩スペースの整備、遊歩道整備、駐車場整備も行いました。また、日本遺産支援自販機を市内5か所に設置し、売り上げの一部が協議会に寄付されています。

日本遺産に認定されたことにより、構成文化財への訪問客の増加を目的として行う事業が、重要文化的景観の整備、活用事業につながっています。



PR冊子作成のために撮影した大木の農村景観



日本遺産日根荘推進協議会のホームページ。イベント情報や映像などコンテンツが盛りだくさん



大木地区周遊案内看板。多言語に対応するため、QRコードから、解説サイトに誘導



令和5年度日本遺産講演会「全国中世荘園サミット」

団体等情報：日本遺産日根荘推進協議会
<https://hinenosho.jp>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育ち

（５）活用事例

事例27-01 ③

保存・活用上重要なアクセス路である林道の防災工事

文化庁補助金

●行政による取り組み

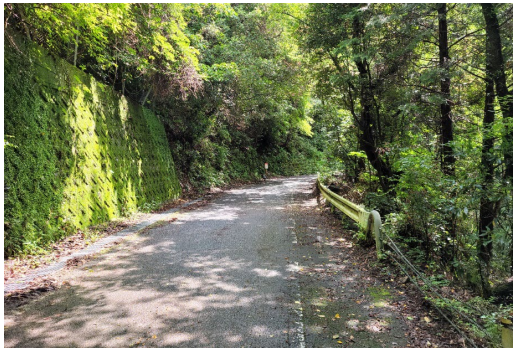
重要な構成要素である林道犬鳴東手川線は犬鳴山（金剛生駒紀泉国定公園及び大阪府名勝）の範囲であり、地域の林野資源を確保する管理道路です。また葛城修験の修行の場である犬鳴山七宝瀧寺への参詣道です。一年を通して多くの参詣客、行楽客が利用する道です。

しかし、近年の度重なる自然災害（大雨・台風等）により、多数の箇所では法面の崩落があったため、農林水産課と協働し、数年の計画を立てて法面の改修補強工事を行いました。

法面崩落に影響を及ぼす支障木の伐採を行い、法面復旧補強工事として、地元の石の積み方である玉石練積みが残っていた箇所での工事については、同様の積み方で石積みを行い法面崩落の防災工事を行いました。また落石防護ネットを設置する箇所の工事については、周囲の景観に配慮した色彩のダークブラウンの防護ネットを使用して設置をしました。

大木地区の住民の声

防災工事においても通行人・通行車両の安全確保という面とともに、身近な地場産材や工法の採用などで進化的な景観の保全につなげてほしいです。



林道犬鳴東手川線



自然災害により法面が崩落



ダークブラウンの防護ネットを設置



玉石練積みでの石積みを行い法面を修繕

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源と
確保の運用

⑥ 人づくり・
育